



2024 年は元日の能登大地震、2 日の羽田航空事故、被災された方々に心中よりお見舞い申し上げます。代スキ会ニュースは朝倉理事長の年頭所感と、2023 年の後半に行われた「代官山駅前の“これから”を考える」ワークショップ、よもやま話として代スキ会の原点となった「代官山駅の復旧を促進する会」のみなさまとの話と、哲学カフェの報告です。

年頭の挨拶

代官山ステキなまちづくり協議会 理事長 朝倉 健吾

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年中、色々なイベントに参加して下さった皆様、その企画運営をしてくれた事務局の皆様にご礼を申し上げたいと思います。今年は、新年早々、能登半島において大変大きな地震と津波が発生し、甚大な被害をもたらしました。犠牲者の方々に謹んで哀悼の意を表すと同時に、ご遺族の方々、そして多くの被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。このような大災害は、いつ何処で起こるかわからないので、対策や備えについては、常に真剣に考えなければならないと痛切に感じました。代スキ会は、過去(2007 年)にまちづくりシンポジウム「防災と代官山のまちづくり」を開催し、3.11 以降も防災に関する活動を行いましたが、継続することが出来ず空回りに終わってしまったような気がします。近隣町会の仲間に加えていただくことにより、防災活動の実態を学びながら、今後、より現実的な活動につなげていきたいと思っています。災害時、代官山のように来訪者の比率の高い地域では帰宅困難者の問題が必ず起こります。そして、それは、地域全体で協力し合うことがなければ解決できない問題と考えています。まちの価値を決定的にするといわれるこの問題に対する行動がどうあるべきか、また、そのためには日常的にどのような活動をすべきかについて、皆さんと共に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

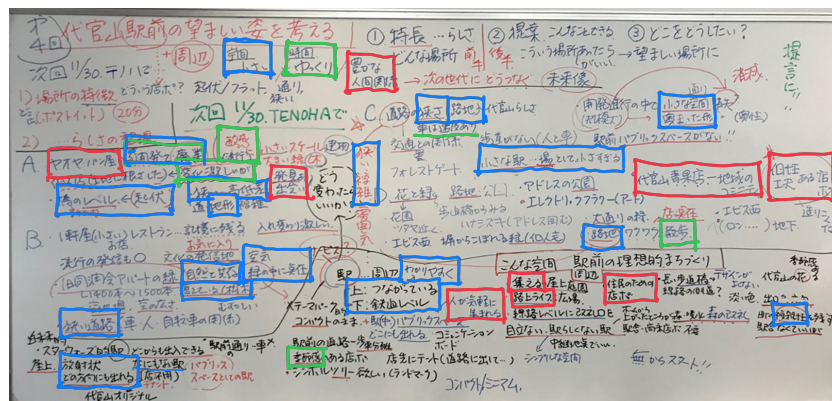
「代官山駅前のこれからを考える」ワークショップ第 4 回・第 5 回

第 4 回代官山駅前の望ましい姿を考える(10/3)、第 5 回代官山駅・駅前・駅周辺の理想的風景(11/30)では、駅と駅周辺をめぐる時間・人間・空間の理想像を語り合いました。

まず、「時間」の紡ぎ方については、ゆっくりと、季節感・個性を大切に、老舗とブランドショップのバランス等についての意向が聞かれ、「時間をかけて、ゆっくり育む・育てる、優しさや安心感」が重要視されていました。また、「人間(ジンカン)」については、豊かな人間関係をつくるための出会いや地域コミュニティが望まれ、そのために自分の居場所とともに、人との出逢いやコミュニケーション、違う世界とつながる期待が示され、「個性あるヒト・モノ・コト・場所と繋がろうとする」心持ちが浮かび上がりました。そして、これらの時間と人間(ジンカン)が育まれる理想の「空間」として、小さくてコンパクトな空間、何もない駅、奥性のある狭い場所や路地、人中心の道、まちの複雑性、地形の高低差、ゆっくり佇める場所等が、「自分たちの場所として、また安心して暮らせる町」として望まれていることが、明らかになりました。さて、これらを踏まえ、駅と駅周辺はどんな「場」にしていくべきなのでしょうか。



▲第 4 回アドレスコミュニティルーム:40 名参加



◀前回の
論議を踏ま
えて紡ぎ出
された
キーワード



▲第 5 回 TENOHA 代官山イベントスペース:31 名参加

第2回よもやま話

「代官山駅復旧を促進する会」で中心に活動された方により“よもやま話”として2023年10月17日ヒルサイドE棟サロンで行いました。1985年代官山駅のホーム延伸に伴い踏切を閉鎖することに対し、区議の一部、関係町会会長含め踏切は閉鎖すべきではない、平面交通を確保すべしとの請願書が地域の方々の署名を集め出されました。当時ホームが短く4車両のうち1両のドアが開かない状況で、踏切を廃止しホームを延伸させなければ将来駅として存在も危ぶまれていました。代官山



駅が閉鎖され仮駅に移されてしまいました、駅を元に戻して欲しいとの数人の主婦が集まり、井戸端会議がスタート。瞬く間に多くの人の共感、理解を得て、“代官山駅の復旧を促進する会”ができました。その活動は多くの住民の共感を得るとともに事業者、渋谷区、議会を動かし、当初反対していた関係町会会長にも理解を得て、踏切を閉鎖し8両編成の車両が停まることのできる現在のホーム・駅ができました。地域主婦の素朴な思いからスタートした活動が成果を上げた稀有な出来事でした。そのスピリットは“代スキ会”に活動の原点として受け継がれております。これらの活動の紹介は「第2回よもやま話『雪だるま(代官山駅復旧を促進する会)』」

<https://youtu.be/jczKkqMpvEM> (ユーチューブの限定公開) で見るすることができます。

代官山哲学カフェ

11月11日(土)にクラブヒルサイドにて哲学カフェを開催しました。今回の哲学カフェは参加人数が10人でしたので、カフェでおしゃべりするように、“街のこと”“代官山のこと”をテーマに一緒にじっくり考え、ゆっくり膝を突き合わせて、のんびりと対話することができました。まずは普段見過ごしがちなみなさまが感じる街を見つめることから「なぜ」「ふしぎ」を見つけ、問いにすることから始め、参加者から9つの問いがありました。その中から「まちの死ってなんだろう?」「町がただの場所になった時街は死ぬのか」というテーマで対話を進め、掘り下げていきました。



東日本大震災後の瓦礫が残る街でも死を感じない、一方ある地域で想定した行動しかできない街に死を感じる、また、西新宿、渋谷、福岡などホームレスを排除し、“生きさせない街”などと興味深い話ができました。そこに暮らす人の有様により街の“生き、死に”を感じる、多くの開発が人を無気力にさせてしまうことへの不安、危惧が語られました。次回は3月に予定しています。

代官山ステキな街づくり協議会とは?

「代官山ステキな街づくり協議会(通称代スキ会)」とは、渋谷区まちづくり条例に基づく、この地域の認定まちづくり協議会です。認定まちづくり協議会とは、地域のまちづくりに関するルールづくりや、行政への提言を行うことができる組織です。

代官山ステキな街づくり協議会 (略して代スキ会) へのお誘い

- 代スキ会 website <http://daisukikai.org>
- 会費 正会員 / 年額 10,000円
賛助会員(個人) / 年額 2,000円
賛助会員(団体) / 年額 50,000円

- お問い合わせ先 代官山ステキな街づくり協議会事務局
石原貞治(ICAデザイン研究所内)
TEL:080-4404-1933 E-MAIL:iishi_machi@ica-d.co.jp

代官山好き!

がただ一つの入会資格
いつでも誰でもウェルカム♪

